

博

物

館

No. 113

2018年12月1日発行

Museum News

ニュース



徳島市恵解山1号墳出土 衝角付冑・鉄鏃 (徳島市立考古資料館蔵)

恵解山古墳群は、かつて徳島市八万町にあった古墳時代中期～後期(5世紀～6世紀)の古墳群です。豊富な鉄製武器・武具が出土しており、徳島の代表的な中期古墳のひとつといえます。

部門展示「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」では、恵解山古墳群から出土した資料を一堂に展示するとともに、恵解山古墳群の保存問題をとおして、私たちの生活と遺跡保存の両立について考えます。

(考古担当：岡本 治代)

# 阿波晩茶の製造技術と晩茶の個性

磯本宏紀

## 1. 阿波晩茶とは

阿波晩茶<sup>あわばんちゃ</sup>といえば、近年は那賀町<sup>な かつやう</sup>、上勝町<sup>かみかつやう</sup>などの特産品の一つに数えられるお茶で、日常的に飲まれています。お茶の分類上、後発酵茶<sup>こうはつこうちや</sup>と呼ばれるもので、一度煮て発酵を止めた後、再び漬け物<sup>しつけもの</sup>のように桶<sup>おけ</sup>に漬けこんで作ります。阿波晩茶の生産農家は、自家製茶として現在でも手作業でつくっています。それぞれの家でつくっているの、家や地域によって少しずつ味が違います。

この阿波晩茶の製造技術について、現在徳島県内で共同調査が進められています。後発酵茶の製法が県内各地に現存していることは、他地域と比べて非常に稀少<sup>きせう</sup>な例だからです。今回は阿波晩茶の製造技術や用具について紹介します。なお、晩茶について、「番茶」「ばん茶」と表記をすることもありますが、ここでは「晩茶」に統一しています。

## 2. 阿波晩茶の製造工程

阿波晩茶の製造工程の特徴を挙げるなら、夏の暑い時期の茶葉を使って桶で漬けこんで発酵させてつくるといふ点です。

茶つみは6月下旬から8月上旬にかけての暑い時期にします。山の斜面の茶畑で一度にまとまった量をつむ必要があるため、お礼を支払って手伝いを頼みます。暑い時期の作業であることに加え、春の新芽<sup>かた</sup>に比べて茶葉が硬いのでたいへんです。茶つみ機を導入している家もありますが、手づみで茶葉をつむ家もたくさんあります（図1）。たくさんのお礼の人を集めて茶つみをするのはたいへんな労力ですし、お礼の費用もかかります。

つんだ茶葉がある程度集まると、加工の作業に入ります。家の庭や納屋などにつくった竈<sup>かまど</sup>に大きな釜<sup>かま</sup>をすえ、茶葉を1籠<sup>かご</sup>ずつ煮ます（図2）。煮た茶葉は揉捻機<sup>じゆうねんき</sup>や茶すり器<sup>ちやすりき</sup>を使ってmond後（図3）、コガと呼ばれる大きな桶に入れて漬けこむ



図1 茶葉の手つみ（2018年7月、那賀町吉野）



図2 茶葉を釜で煮る（2013年7月、上勝町神田）



図3 船型茶すり器でもむ（茶すり）（2013年7月、上勝町神田）

準備をします。大きなコガのある家では、漬けこんだ茶葉と茶葉の間に空気が残らないよう、中に人が入りコガの端から踏み込みます（図4）。その上から最初に茶葉を煮た煮汁をかけて、できる



図4 桶に入れた茶葉を踏み固める（2018年7月、那賀町吉野）

だけ茶葉が空気に触れない状態をつくります。漬けこんだコガの中に空気が残っていると、そこで不必要な菌が繁殖して腐ってしまうから、踏み込みの作業は重要です。

この一連の作業をくり返してコガがいっぱいになると、ふたをして密閉します。茶葉の上にバショウの葉やシュロの葉などを敷く家もあります。殺菌効果があるからだとされます。ふたをのせ、その上には大きなおもり石をいくつものせます。きっちりふたで押さえて密封し、1～2週間、長いと3週間ほど漬け込むこともあります。この間、コガの中で発酵が進み、晩茶に仕上がっていきます（図5）。

最後に夏の太陽の下で乾かします。コガを開け、早朝に庭に敷きつめたむしろなどの上に薄く広げ、途中ひっくり返しながら夕方まで干します（図6）。途中雨でぬらしてしまうとお茶が台無しになってしまいます。そのため、その日の天気気をつけ、夏の夕立を警戒しながら乾燥させます。

こうして手間ひまかけて作られたお茶が阿波晩茶です。選別し、袋づめしたものが商品として出荷されていきます。

### 3. 製法の地域と家による違い

ところで、晩茶農家の製法を比べてみると、それぞれ「個性」があることがわかります。主な点として、①茶葉を煮る時間、②茶をもむ用具（揉捻機・茶すり器）、③茶を漬けこむ桶の材質と大きさ、④茶を漬けこむ期間の4点を挙げることができます。

①の茶葉を煮る時間は、3分程度の家もあれば20分程度の家もあります。全体的に上勝町の農家で短く、那賀町の農家で長い傾向があります。

②の茶をもむ用具については、上勝町に舟形の



図5 おもり石をのせて茶葉を漬けこんでいる桶とこれから加工する茶葉（2018年7月、上勝町生実）



図6 発酵させた茶葉を庭で干す（2018年8月、那賀町吉野）

茶すり器を使用している家が多いのに対し、那賀町に揉捻機を使用する家が多いといった傾向があります。あるいは、茶もみや漬け込み作業を専門にする業者に任せる家もあります。

③の茶を漬けこむ桶の材質や大きさについても家によって違いがあります。直径1m以上あるような、数世代にわたって使われる大きな木桶で漬けこむ家もあれば、直径50cmほどのプラスチック容器で漬けこむ家もあります。木桶を新調するのが難しいこともありますが、容器の材質やその大きさにバリエーションができています。

④の茶を漬けこむ期間は2週間程度とすることが多いですが、それでも家によって、作業のタイミングや天候によって1週間近く前後することがあります。

そのほかにも、茶葉の品種（ヤマチャ、ヤブキタなど）や茶畑の条件、乾燥させるときの天日干しする場所や加減、茶つみの方法、出荷時の袋などお茶の味を決めそうなさまざまな要素について、家や地域による「個性」があります。

調査が進めばこうした製法の「個性」について、調査データで示されていくものと思います。調査結果に期待したいですね。

（民俗担当）

# 徳島市恵解山古墳群の 発掘と遺跡保存

貴川。この蛇行も那賀川のも一つの秘密の一つ。

恵解山古墳群は、徳島市八万町にあった古墳時代中期～後期（5世紀～6世紀）の古墳群です。昭和39年（1964）から昭和54年（1979）にかけて、数度にわたる発掘調査が行われ、甲冑、鉄鏃（鉄の矢じり）、鉄剣といった豊富な鉄製武器・武具などが副葬されていることが明らかになりました。その一方、八万町一帯の宅地開発が進む中で、発掘調査を終えた古墳は姿を消しています。

この部門展示では、現在徳島県内に保管されている恵解山古墳群出土資料を一堂に展示するとともに、恵解山古墳群の保存問題をとらえて、私たちの生活と遺跡保存の両立について考えます。

## 展示構成

1. 恵解山1号墳の発見
2. 発掘調査の成果
3. 恵解山古墳群の保存をめぐる

### 主な 展示資料

- ・ 恵解山1号墳出土 甲冑・鉄鏃（徳島市立考古資料館蔵）
- ・ 恵解山8号墳出土 鉄剣・鉄斧（当館蔵）
- ・ 恵解山9号墳出土 鉄剣・鉄鏃・珠文鏡・白玉（当館蔵）
- ・ 恵解山10号墳出土 須恵器・玉類・耳環（徳島市立考古資料館蔵）



恵解山1号墳出土 甲冑・鉄鏃  
（徳島市立考古資料館蔵）

<会期> 2018 11/27(火)～2019 1/20(日) 9:30～17:00



恵解山5号墳出土 須恵器（当館蔵）

<会場> 徳島県立博物館2階 部門展示室

<休館日> 毎週月曜日（12/24、1/14は開館）、12/25（火）、12/29（土）～1/4（金）、1/15（火）

<観覧料> 一般200円、高校・大学生100円、小中学生50円  
祝日・振替休日はどなたさまも無料/高齢者（65歳以上）は無料/土・日曜日は小・中学生及び高校生は無料/学校教育による利用は無料/障がい者とその介助者1名は無料/20名以上の団体は2割引

## 展示解説

- ①平成30年12月16日（日） 14:00～14:30
  - ②平成31年 1月20日（日） 14:00～14:30
- ※観覧料が必要

## ミュージアムトーク

### 「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」

日時：平成31年1月6日（日） 13:30～15:00

会場：博物館3階 講座室

※無料・事前申し込み不要



恵解山9号墳出土 珠文鏡  
（当館蔵）



恵解山9号墳南方埋葬施設

# 徳島県勝浦町で恐竜化石含有層と 新たな恐竜化石などを発見

徳島県勝浦町には、白亜紀前期（約1億3000万年～約1億年前）の地層である物部川層群が分布しています。その一部は、陸域（淡水～汽水の環境）で堆積した地層（約1億3000万年前）であり、以前からシダ植物や貝類などの化石の産出が知られています。1994年、この地層から四国初の恐竜化石である鳥脚類イグアノドン類の歯が発見されました。さらに2016年には、県内2例目となる恐竜化石の竜脚類ティタノサウルス形類の歯が発見されました。この2例目の発見をきっかけに、徳島県立博物館は、福井県立恐竜博物館および県内の化石愛好家らの協力を得て、約2年間、新たな恐竜化石の発見のための調査を続けてきました。

過去に勝浦町で発見された2点の恐竜化石は、いずれも地層から抜け落ちた岩石中から見つかったもので、恐竜化石を含む地層の特定はできていませんでした。しかし、地道な調査を続けたところ、ワニ類の歯（図1）やカメ類（スッポン類など）の甲羅（図2）、硬鱗魚（アミアやガーなどの仲間）のウロコ、淡水生サメ類の歯などの脊椎動物化石を比較的多く含む層を発見しました。同様の

脊椎動物化石は、恐竜化石産地として有名な福井県勝山市や石川県白山市などにおいても、恐竜化石と一緒に発見されており、恐竜化石を見つける際の目印になっています。そのため、この層を丹念に発掘すると、今年2018年4～5月にかけて、新たな恐竜化石（竜脚類ティタノサウルス形類の歯）を3点発見しました（図3）。さらに恐竜の骨質化した髓化石2点も地層中から発見できました（図4）。特定の層から恐竜化石をはじめとする多数の脊椎動物化石を発見できたことから、この層を恐竜化石含有層（いわゆるボーン・ベッド）であると判断しました。

徳島県立博物館を中心とした研究チームは、今後もこの恐竜化石含有層の発掘調査を続ける予定です。今後の発掘調査次第では、将来、「恐竜王国トクシマ」と呼ばれる日が来るかもしれません。

（地学担当：辻野泰之）



図1：白亜紀前期のワニ類の歯化石

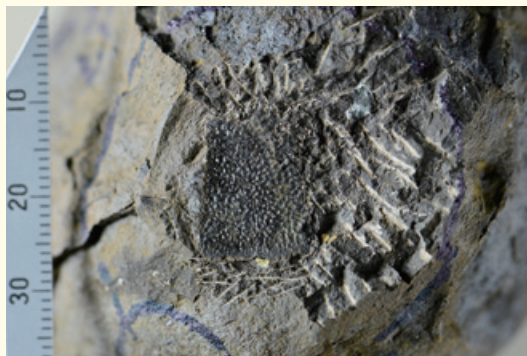


図2：白亜紀前期のカメ類（スッポン類）の甲羅化石



図3：竜脚類ティタノサウルス形類の歯化石（左）と生体復元図（右上）



図4：恐竜の骨質化した髓化石

# 長翅型のナベブタムシ

ナベブタムシという昆虫をご存じですか？その名のとおり、鍋のフタのような円くて平たい体をしている昆虫です（図1）。水中で暮らすカメムシの仲間で、水のきれいな流れの速い河川にすみ、カゲロウやユスリカ、トビケラなどの幼虫を捕食します。通常は水底にある砂利の中にかくれて生活しています。成虫は、気門の周りに生える細かい毛の間に水中の酸素をためて呼吸をする“プラストロン呼吸”を行うため、生涯を通じて水中で過ごすことができます。また、ナベブタムシの体には短い前翅しかなく、後翅も退化しているため飛ぶことができません。しかし、ごくまれに長い翅をもつ長翅型の個体が見つかることがあります。

2017年6月に神山町の鮎喰川で長翅型のナベブタムシが見つかりました。広野小学校が毎年実施している水生生物の調査中に子どもたちによって採集されたのです。容器に入れられた多数のナベブタムシの中に、他の個体とは雰囲気の違いが1個体いることに気づきました。ルーペで確認すると長翅型のナベブタムシでした（図2）。今回見つかったのは、

前翅が腹部の先端まで完全に覆っている個体でした。長翅型と呼ばれる個体には、これまで2つのタイプが知られています。1つは前翅の先端が腹部の第4背板までしか届かないタイプで、もう1つは腹部先端まで完全に伸びているタイプです。後者の場合、後翅もよく発達しており、飛翔が可能と考えられています。貴重な個体なので、解剖して後翅の状態を観察していませんが、おそらく十分に発達した後翅をもった飛翔可能な個体であると推測できます。

ナベブタムシは本州、四国、九州の各地の河川で普通にみられる昆虫ですが、最近、以前と比べて身近な昆虫ではなくなってきました。地方自治体のレッドデータブックに掲載されるようになったのです。徳島県でも準絶滅危惧種に挙げられています。長翅型の出現率は詳しくわかっていないようですが、少なくとも今回の発見から言えることは、神山町の鮎喰川にはナベブタムシがたくさんいて、生息環境が良好に保たれているということではないでしょうか。

（動物担当 山田暈崇）



図1 通常のナベブタムシ（短翅型）



図2 長翅型のナベブタムシ（♂）



## 瀬戸内の風景をかいた絵巻がある そうですが？

当館には、<sup>もりずみつらな</sup> 守住貫魚 (1809-92) が描いた「<sup>えが</sup> 全国名勝絵巻」全10巻があります。この絵巻の中に、<sup>せとうち えんかい ぶ</sup> 瀬戸内の沿海部や、島々の風景図が収められています。

貫魚は、徳島藩に抱えられた絵師で、流派は住吉派になります。藩主の蜂須賀齊昌の身近につきあえ、作品を多く残しています。彼は北陸や中部地方を旅し、また齊昌の参詣や湯治などのお供をして、道中の風景を写生しました。それらを巻物にまとめ、藩に提出したのが「全国名勝絵巻」です。天保年間 (1830-44) に完成したといわれています。

この絵巻は、紙の地に墨と淡い色で描かれています。画面の天地が19.3センチで、懐中できる写生帖とさほど変わらないサイズです。各巻には、いつの頃からか、下記のように地名などを冠した巻名が付けられています。10巻のうち半分以上の6巻が、瀬戸内とその近辺の地名などで占められています。○印のあるのが該当する巻です。

- |          |           |       |
|----------|-----------|-------|
| 橋立の巻     | 城の崎の巻     | ○巖島の巻 |
| 赤坂の巻     | ○隠渡(音戸)の巻 |       |
| ○花(鼻)栗の巻 | 諏訪の巻      |       |
| ○碁浦の巻    | ○靱(靱か)湊の巻 |       |
| ○錦帯橋の巻   |           |       |

ただし6巻の内容を確かめると、風景図の順序が地理的にばらばらで、巻名とも対応しません。

この絵巻は、どうやらある時期に修理されており、その時に画面が混ぜこぜにされ、まちがえて貼り継がれたようです。

それでは瀬戸内の風景絵巻として意味がないかという、そうでもないようです。

以前、福山市鞆の浦歴史民俗資料館の方々が、この絵巻に収められた鞆の浦の風景図を調べられたことがあります。さがしてみると6図もあり、4巻に分散していました。内訳は、「鞆の医王寺境内から見た図」、「鞆の祇園社内からの眺望」、「鞆湊の四方の図」(写真1)、「伊予の海上から鞆を遠望する図」、「鞆の湊から沖を眺望する図」、「鞆の湊を沖から見る図」です。鞆の浦を遠望したり、海側から町並みを見たり、陸にあがって高いところから見下ろしたり、そこから島々をながめたりと、実にさまざまな視点で描かれています。中には、とりたてて目ばしいものがなく、ほとんど絵画化されていない場所の風景図もあり、感心されていました。

瀬戸内にかかわる6巻は、現在の兵庫、岡山、広島、山口、香川、愛媛の6県におよびます。描かれた位置を丹念に調べれば、当初の画面の順序が復元できるかも知れません。そうなれば、写生した旅の年代や行程も分かり、さらに多くの知見が得られるのではないかと期待されます。

(美術工芸担当：大橋俊雄)



写真1 「全国名勝絵巻」の靱湊の巻から、「靱湊の四方の図」の部分

シリーズ名	行 事 名	実施日	実施時間	申込	対 象 (定員)	備 考
歴 史 散 歩	池田を歩こう	3月24日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(20)	現地集合
野外生きものかんさつ	花巡り！植物かんさつハイキング(新年編) ～冬の森探検、寒さの中の花探し～	1月20日(日)	10:30~17:00	不要	小学生から一般	阿波史跡公園駐車場 (徳島市国府町) 集合
	初めての植物かんさつ(新春編)	2月 3日(日)	13:30~15:30	不要	小学生から一般	同日開催 「ゼロから始める植物学」
	花巡り！植物かんさつハイキング(春編) ～春の芽吹きを見つけ隊～	3月31日(日)	10:30~17:00	不要	小学生から一般	大神子公園コースホテル前 (徳島市大原町) 集合
みどりを楽しもう・味わおう	タンポポコーヒーでティータイム	3月24日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	
生きものしらべ隊	電子顕微鏡で昆虫を見よう！②	3月10日(日)	13:30~15:30	要	小学生から一般(15)	
たのしい地学体験教室	木の葉化石の発掘体験	2月17日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(25)	材料費100円 (高校生以下は不要)
	三好市三野町の中央構造線を歩こう	3月 3日(日)	13:00~15:30	要	小学生から一般(25)	現地集合
ワクワクむかし体験	焼き物を作ろう①(成形)	1月13日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(20)	①・②セット 申込みは1/3(木)まで 材料費300円 (高校生以下は不要)
	焼き物を作ろう②(焼成)	2月24日(日)	9:30~16:00			
ミュージアムツアー	徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存	1月 6日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	ゼロから始める植物学～植物分類学入門～	2月 3日(日)	10:30~12:00	不要	小学生から一般	同日開催 「初めての植物かんさつ」
	近世後期阿波の民衆運動	2月 3日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
	とくしまの先人・美術編	3月10日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(50)	
部門展示関連行事	部門展示「徳島市恵解山古墳群の発掘と遺跡保存」展示解説	1月20日(日)	14:00~14:30	不要	-	観覧料必要
	部門展示「写真家岩朝哲男氏が撮った鳴門の風景」展示解説	3月21日(木祝)	14:00~14:30	不要	-	祝日無料
博物館スペシャル	文化の森ウィンターフェスティバル	2月11日(月祝)	9:30~16:00	不要	-	祝日無料

◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

### 普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
- ◎行事日の1か月前から10日前までに必着でお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名を記入してください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。
- ※お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636)

#### 往復はがきの記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
62 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないで ください	62 〒00000000 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の 行事名 2.参加希望者 全員名 (学年・年齢) 3.住所 4.電話番号

### 特典がいっぱい!! 博物館友の会に入会しませんか!

博物館友の会は、さまざまな活動を通して自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流を図っています。2019年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか？

■年会費 ・ 個人会員2,000円 ・ 家族会員3,000円  
(10月以降、年会費がそれぞれ半額となります。)

#### 会員の特典

- ・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。(一部の企画展を除く)
- ・友の会の行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入できます。
- ・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。



### 学校教育に博物館を!

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと思います。

- 遠足
- 館内授業(博物館で)
- 出前授業(学校で)
- 博物館資料の貸し出し



#### ★教材研究のお手伝い

- ・学習内容に関する質問など、何でも気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸といった専門分野の学芸員がご相談に応じます。まずは、お電話を。

上記お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636)